

平成26年度 第4回理事会議事録

日 時 平成27年3月14日（土）13時30分～15時20分

場 所 道立体育センター中研修室

出席者 近藤龍夫、嶋倉 昭、高橋賢治、紺屋正雄
渋谷研一、黒田謙二、須田正毅、田中昌幸
杉木 恵、印藤智一、櫻庭功一、春間好実
碓井喜晴、川村俊明、高坂 猛、山田伸二
西谷清之、高橋克徳、関原榮司、志手典之
山内孝夫、中川裕行、宮原 勉、奈良孝伸
菊池徹、武田和夫、大橋公德、島崎真知子
丸山道博

1 開 会（総務委員長）

※規約第35条より理事会は理事31名の過半数以上の出席が必要であり、本日は26名の出席により成立することが報告される。

2 会長あいさつ（近藤会長）

理事の皆様には、何かとお忙しい中ご出席をいただきお礼。

現役員の任期は規約上5月の評議員会までであり、本日の理事会は締めくくり。また、新年度の運営の方針や事業計画と関連予算を決める大事な会議でもある。平成27年度は執行部が課題を絞り込み、財政運営問題や国体での成績を重視した取り組みを進めて行く考えであり、皆様のご支援ご協力をお願いする。

今年は、8月に全日本9人制クラブカップ女子大会が札幌で、全国中学校大会が旭川市で開催されるほか、12月にはVプレミアリーグ女子が函館市で開催される。開催地の皆さんやスタッフの皆さんに大変ご苦勞をおかけするが、素晴らしい大会としていただくことをお願いする。

3 協議事項

（1）議事録署名人の選出について

◎規約37条に基づき、近藤会長、渋谷理事長、山田理事の3名を決定する。

（2）平成27年度運営の基本方針（案）について（渋谷理事長・各委員長から）

・日本バレーボール協会は『2015バレーボール宣言』を発表した。バレーボールが持つ特性の“つなぐ”をキーワードに、バレーボールを通じて「自分のからだところの“つながり”」「自分とひととの“つながり”」「ひととひととの“つながり”」を大切にするひとを育むよう、各事業を展開するものだが、“つながり”はバレーボールの原点であり、北海道バレーボール協会においても、これまで以上に日本協会や34の加盟団体、メディア、自治体など関係団体とのつながりを深めるとともに、小学生と中学生、中学生と高校生、高校生と大学生・社会人・ママさん、それぞれのつながりを大切にし、社会人・ママさんのお子さんやお孫さんがバレーボールと成り得る輪が広がることを期待する。

一方、少子化による学校の統廃合による競技人口の減少、超高齢化社会の到来など今日的な社会問題への対応も迫られており、かつての右肩上がりの時代を背景とした当協会の財政構造の見直しは喫緊の課題となっており、平成27年度は協会が置かれている環境を十分認識し、新しい時代に向けた協会の健全な財政運営・競技人口の増加等について検討するため、財政等検討委員会（仮称）を立ち上げる。また、各自治体とともに2020年の東京オリンピック・パラリンピック参加チームの道内合宿誘致を推進するほか、次の5項目を重点課題として諸事業を展開していく。

- ①34加盟団体との連携のもと、JVAゴールドプランの活用などにより競技人口の拡大に努める。
 - ②小・中・高・大の一貫指導の更なる充実、強化を推進し、国体での競技得点獲得を目指す。
 - ③指導普及委員会と強化委員会との連携により、指導・強化体制の充実と指導者の育成に努める。
 - ④大会の円滑な運営に向けて、競技・審判員の養成と若手の人材発掘・育成に努める。
 - ⑤倫理規定を遵守し、体罰・暴力・暴言などの根絶に努める。
- ・また、以上に関する各委員会の取り組みについて説明がある。

◎原案のとおり決定する。

（3）平成27年度事業計画（案）について（各委員長から）

①総務委員会

- ・各会議日程、財政運営等を説明する。

②競技委員会

- ・加盟団体競技委員長会議を 4/4（土）に北農健保会館で開催する。
- ・各大会日程について説明する。

③審判委員会

- ・全道審判委員長会議を 4/11（土）にかでる2・7で開催する。
- ・講習会、レフェリーキャンプ・スクール等の開催、大会派遣審判について説明する。

④強化委員会

- ・中学生、高校生の強化及び9人制と国体少年強化、また、指導者研修会の開催について説明する。

⑤指導普及委員会

- ・ジュニアキャンプ、バレーボール教室等の実施について説明する。

○意見等

- ・指導者の育成は非常に大事であり、スペシャリストの育成に向けて基金の活用やトップチームの監督を集めるなど取り組んでみてはどうか。
- ⇒大事な問題であり、しっかり検討していく。

◎原案のとおり決定する。

（4）平成27年度一般会計予算・特別会計予算（案）について（総務委員長から）

- ・収入では、基金からの繰入金は見込まず、U14大会の日本協会からの助成金は10万円に減額した。また、チーム賦課金等は26年度実績をもとに編成し、総額1,660万円とした。

支出については前年度実績をもとに編成した。

- ・大会費では昨年に引続き、9人制大会を実連主管として8万円に統一した。
- ・特別会計では強化・育成基金を活用す事業として、審判員育成事業（33万円）、国体少年強化対策事業（195万円）、中学生強化練習会（90万円）、総合大会経費（18万円）を計上した。

○意見等

- ・強化・育成基金はこのペースで事業を実施すると3年で無くなる。費用対効果など検証が必要ではないか。
⇒国体の成績はここ3、4年のポイントはゼロで、何とか結果を出すことが必要である。基金はこのままでは無くなるため、国際大会の2015Wcupは北海道での開催は実現しなかったものの、2018年の世界選手権や2019年のWcup誘致実現をめざし努力する。そのことで基金への繰入額を増額していきたいと考えている。
- ・国体開催経費104千円はなにか。
⇒国体少年の保険料となっている。
- ・総合大会の18万円は各大会6万×3大会はプールなのか。
⇒各6万円の3大会経費総額と考えてほしい。
- ・日本協会の運営方針に基づき道協会も運営方針を作っていると思うが、日本協会の動きや考え方が伝わってこない。
⇒北海道協会は日本協会の加盟団体であり、その方針に基づき事業運営している。4月に開かれる予定の加盟団体代表委員総会において示される平成27年度の方針などを適宜情報提供していきたい。
- ・基金の見直しも含め検討委員会で長期ビジョンに立って検討してはどうか。
⇒検討していきたい。

◎原案のとおり決定する。

(5) 平成27年度定時評議員会及び臨時評議員会の開催日時等について（総務委員長から）

- ・開催日時等について次のとおり提案する。
 - ② 定期評議員会（現評議員が出席） 5/30（土）14時30分～ きたえーる
 - ② 臨時評議員会（新評議員が出席） 5/30（土）16時00分～ きたえーる

◎原案のとおり決定する。

<参考>○第1回理事会（現理事が出席） 同日 12時30分～
○臨時理事会（新理事が出席） 同日 15時30分～

(6) 役員等選考委員会委員の選出について（総務委員長から）

- ・会長及び理事長は運営規定第3条第1項に基づき指名委員であるが、3名は理事会で選考することになる。

評議員代表 阿部 豊氏（評議員会議長）
監事代表 川村俊明氏
常任理事代表 大江憲一氏

◎上記3名を決定する。

(7) 北海道バレーボール協会財政等検討委員会（仮称）の設置について（総務委員長から）

- ・設置要綱（案）を説明する。

○意見等

- ・バレーボールをどのように活性化させるかについても議論いただきたい。
 - ・過去には世界トップクラスにいたバレー界だが、関係者に限られた活動で右肩下がりの状況にあると思われる。活動の範囲を広げ経済界とのつながりも広げるべきである。
 - ・「アスナビの会」活動では、3人のアスリート自からが直接説明・PRして、スポンサーを確保している例もあるので参考にすべき。
 - ・中央に向けて積極的にPRを行う。北海道が強くなることではずせないようにしていくことも必要である。
 - ・ロータリークラブやライオンズクラブなどに選手を連れて行くと喜ばれるので、この団体を巻き込むことも一つである。
 - ・芸術文化も大事だが、スポーツで心身を鍛えることはさらに重要と思う。また、指導者の育成と施設整備も求められる。
- ⇒設置する委員会においてもこれら意見を参考にしたい。

◎原案のとおり決定する。

4 報告事項

①審判委員会

- ・Vプレミア決勝（4/4～5）に明井寿枝氏、村中 伸氏が指名された。
- ・平成27年度から6人制のタッチネットの反則が復活する。

②競技委員会


- ・H28 東日本社会人大会 11/3～6 江別協会
- ・H28 ヴィンテージ8全国大会 9/30～10/2 函館協会
- ・H29 マスターズ全国大会 札幌市

5 その他


特になし

6 閉会

議事録署名人 会長

近藤 龍夫 

議事録署名人

渋谷 研 

議事録署名人

山田 伸二 